



中長期的な企業価値向上の実現に向けた 現状分析について

～変貌する未来への挑戦 Challenge 2030～

三愛オブリ株式会社
November 14, 2023

AGENDA



当社の現状

- 業績（経常利益）の推移
- 株価・PBRの推移
- 現金及び預金と自己資本比率の推移
- 株主還元の推移
- 配当方針とROE・配当性向の推移
- 企業価値向上への課題



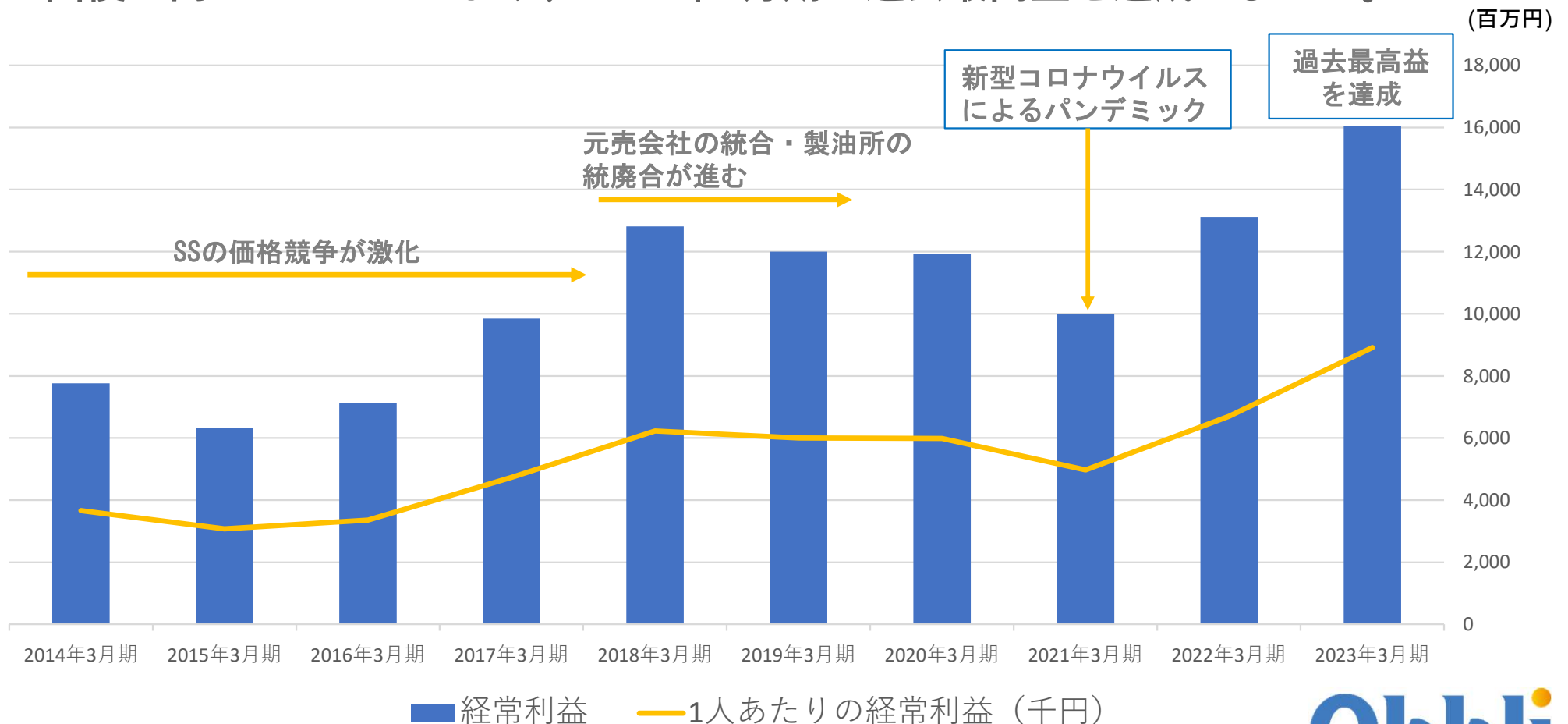
今後の資本政策の方向性



当社の現状

業績（経常利益）の推移

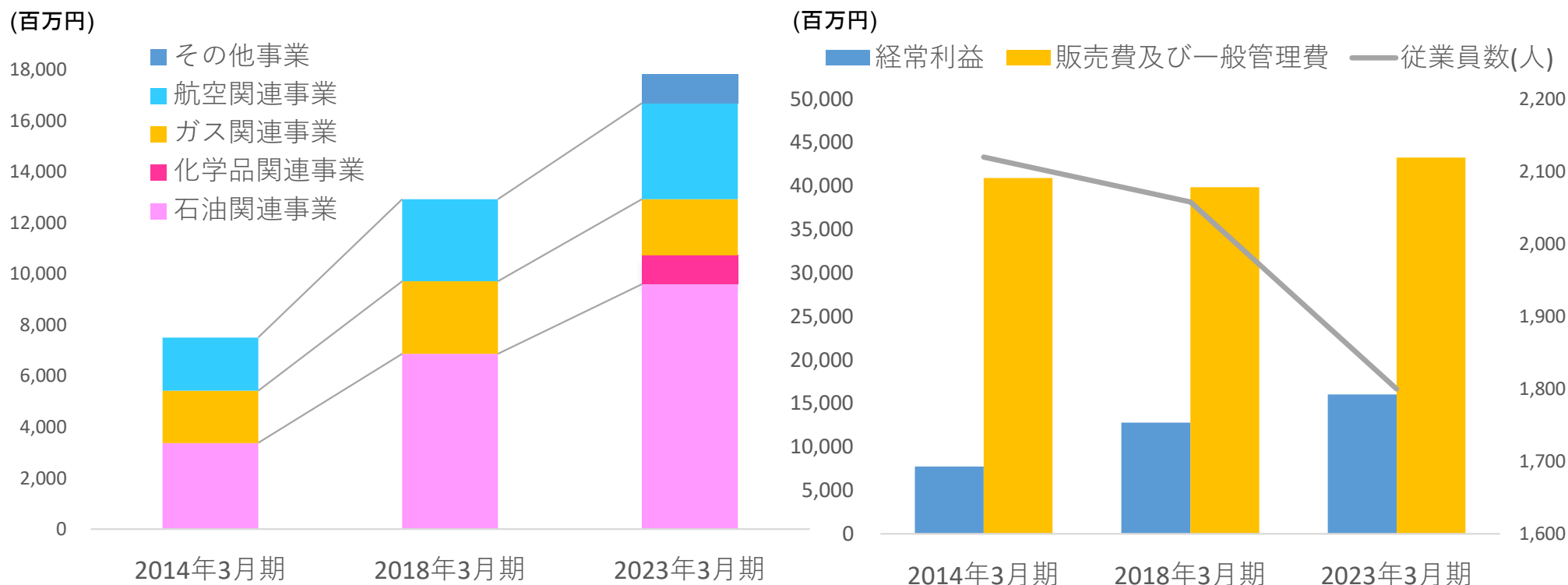
2017年ごろまではSSの価格競争が激しく、石油小売事業における業績が低迷しました。その後、元売会社の統合や製油所の統廃合とともに市況は安定しております。また、コロナ禍によって業績が低迷していた航空関連事業の業績が回復に向かったことにより、2023年3月期は過去最高益を達成しました。



業績（経常利益）の推移

石油・化学品・ガス関連事業はM&Aなどを活用しつつ事業規模を拡大してまいりました。航空関連事業は羽田空港での施設を増強するとともに、安全操業に努めてまいりました。

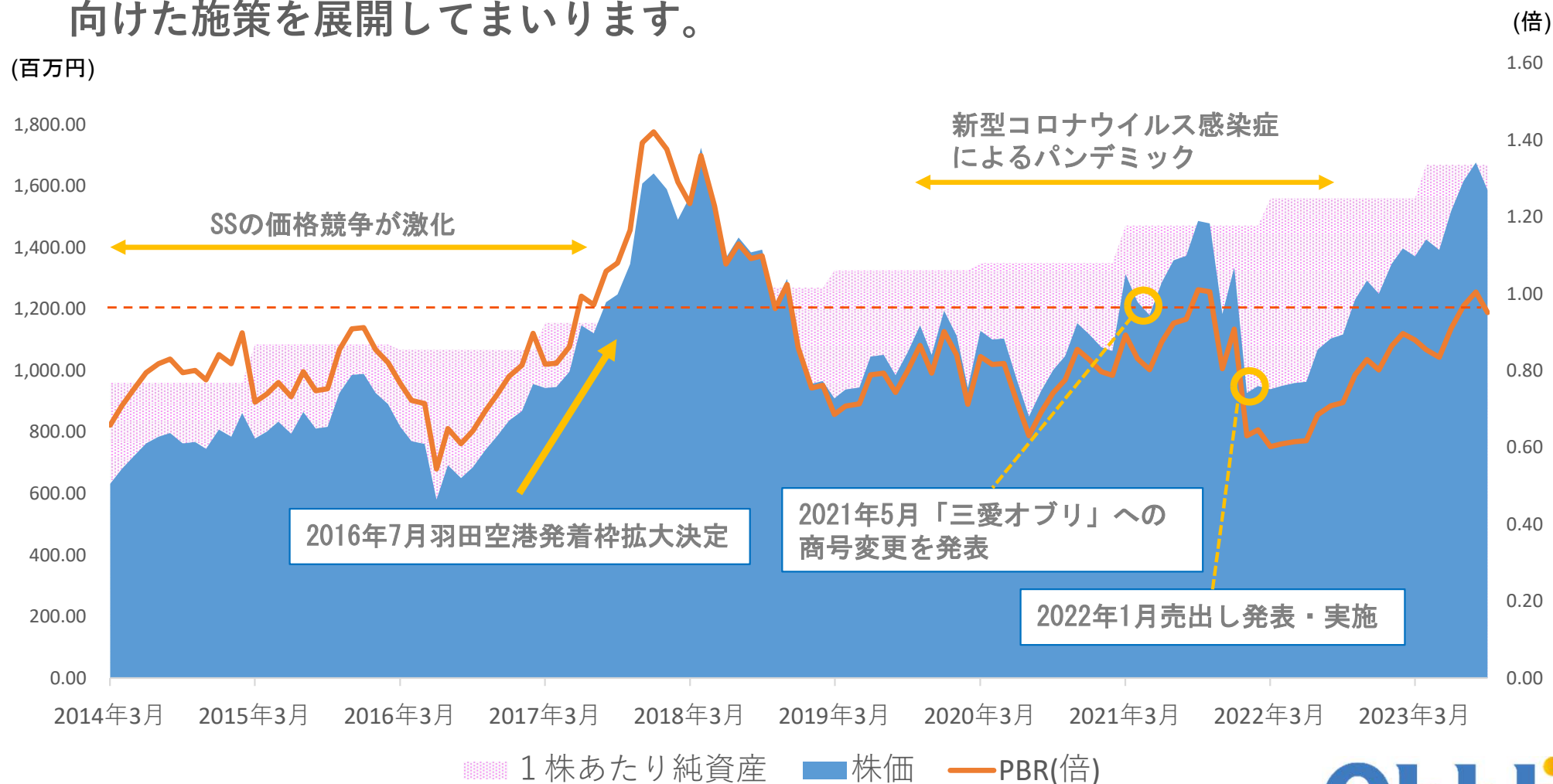
その一方で、採算管理の徹底と経費の抑制によって競争力と収益力を強化し、従業員1人あたりの利益向上を図っております。



※ 2023年3月期は石油関連事業を石油関連事業と化学品関連事業に、航空関連事業他を航空関連事業とその他事業に分割している。

株価・PBRの推移

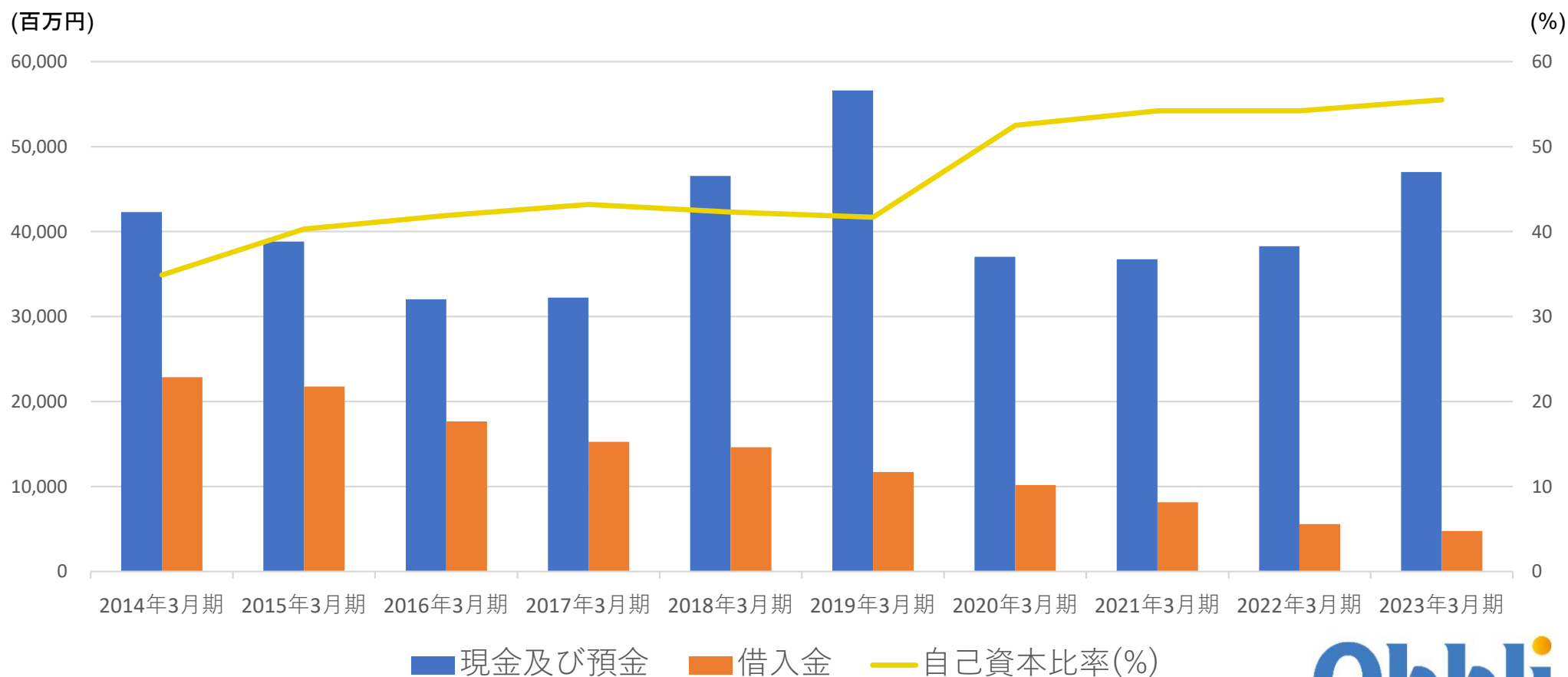
直近10年間、各セグメントが安定した収益を上げており、それに伴って株価も順調に推移しております。今後は安定的なPBR(株価純資産倍率) 1倍超の実現に向けた施策を展開してまいります。



現金及び預金と自己資本比率の推移

CMS（キャッシュ・マネジメント・サービス）を利用したグループ会社間での資金管理の効率化と借入金の削減を進め財務健全性を高めてまいりました。

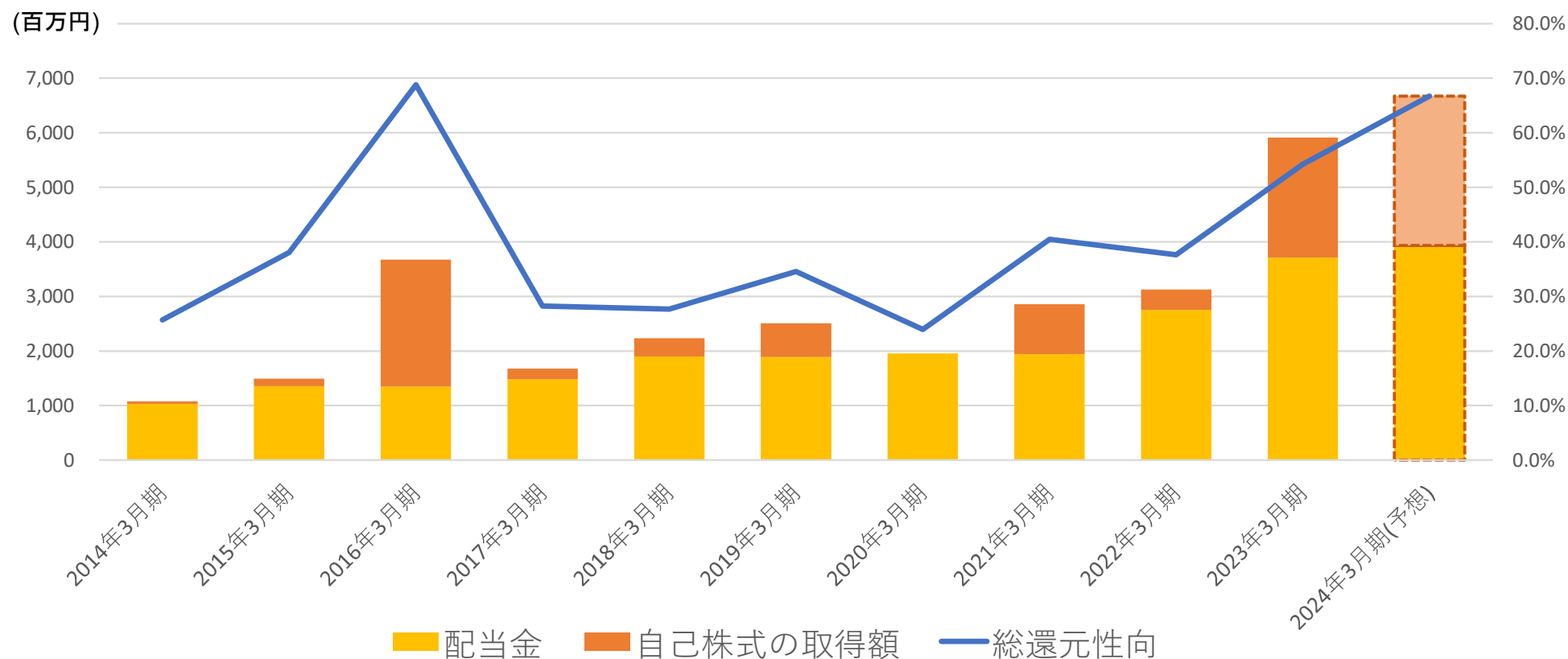
一方で、中期経営計画に掲げた「低炭素・循環型社会に対応した事業ポートフォリオ」への変革に向けた成長投資と余剰資金の有効活用が課題となっております。



株主還元の推移

株主還元につきましては、安定配当を維持しながら当期の利益に応じた配当を実施してまいりました。

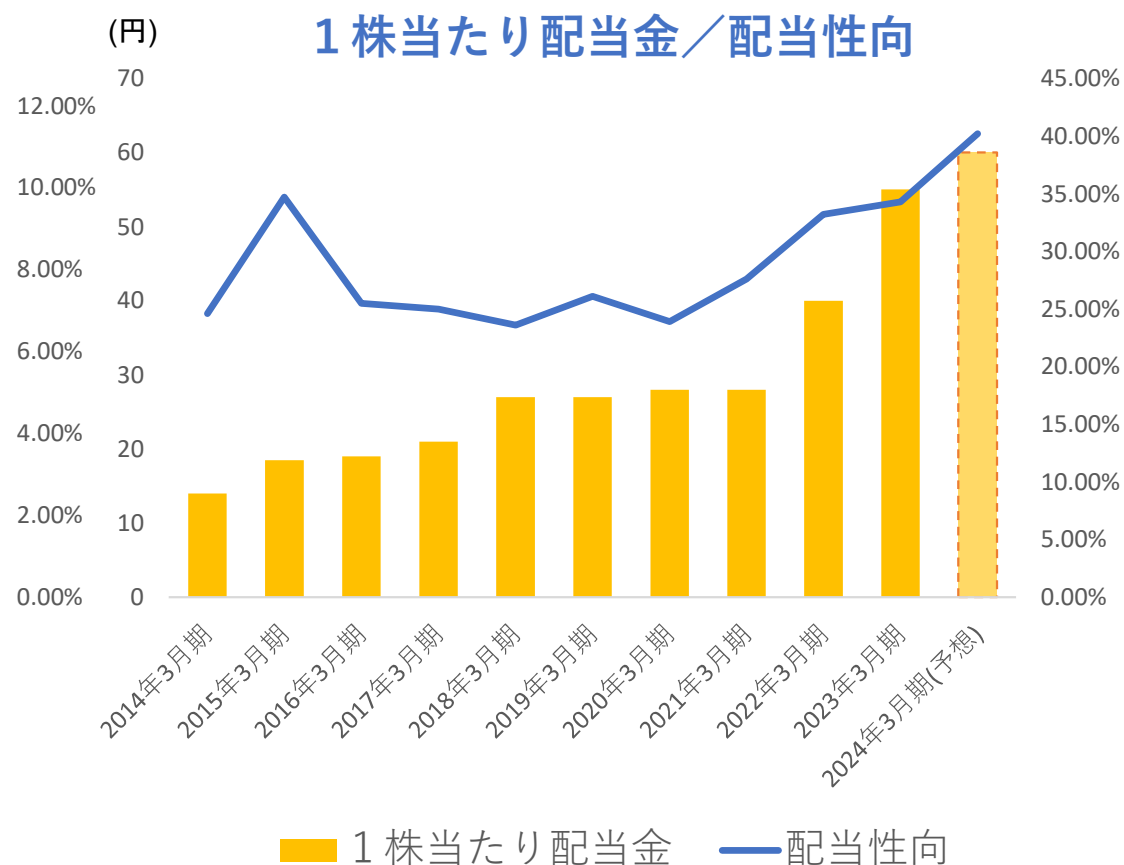
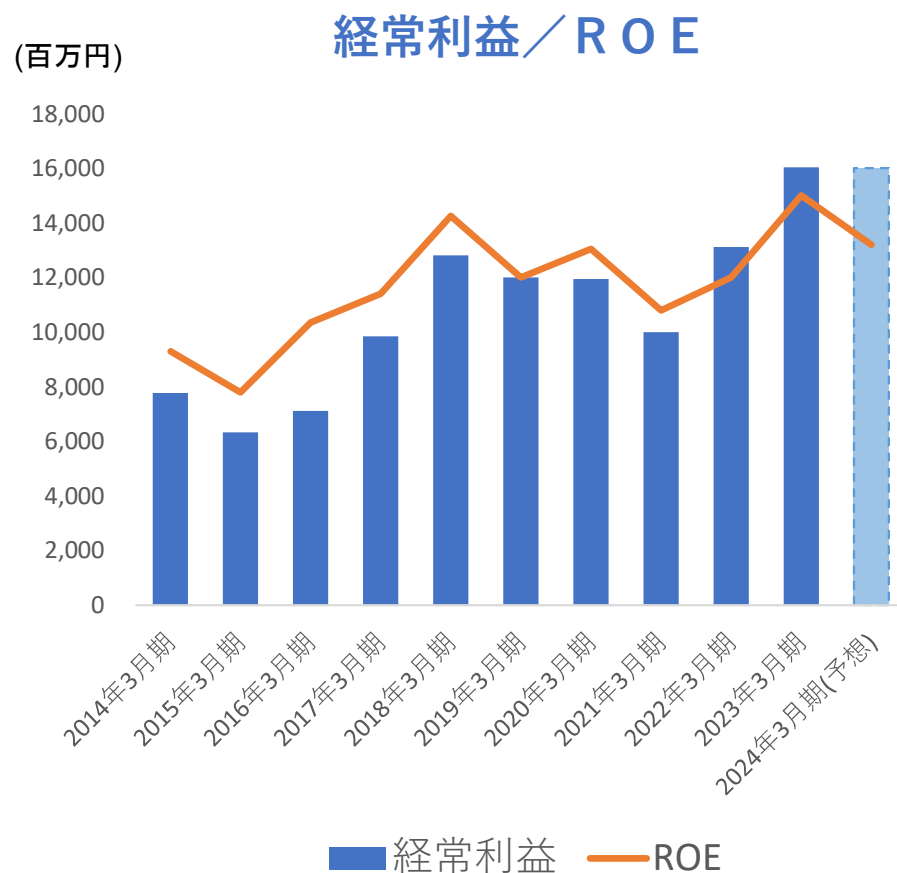
2016年3月期以降は財務健全性の向上に伴い自己株式の取得を進めるなど株主還元の充実に努めております。



※2024年3月期（予定）は2023年5月11日発表の配当予想および2023年10月31日時点の自己株式取得総額を反映している。

配当方針とROE・配当性向の推移

中期経営計画（2021-2023年度）において、ROE8%以上と配当性向30%以上を目標としており、2022年度においてROE10.0%、配当性向34.3%を実現しております。



企業価値向上への課題

直近10年は収益性と財務健全性が大幅に改善したものの、PBR 1 倍超を安定的に維持するには至っていません。

企業価値向上への課題は以下のとおりと認識しております。

事業ポートフォリオの変革

石油依存の事業体制から新たな事業ポートフォリオの構築

余剰資金の有効活用

成長投資と資本効率を意識したキャピタルアロケーションの構築

I R活動の充実

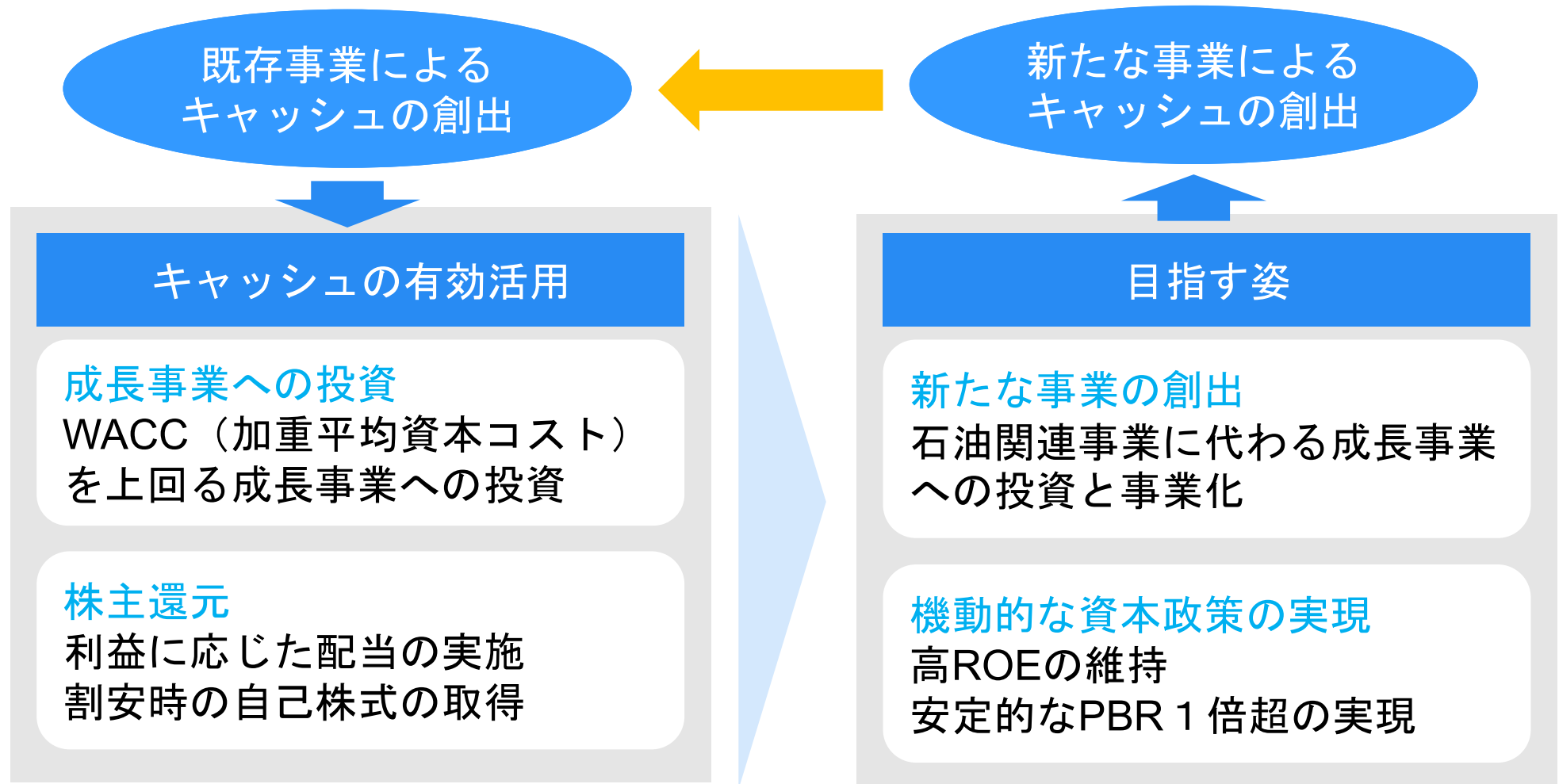
事業戦略説明・英文開示など情報開示の充実



今後の資本政策の方向性

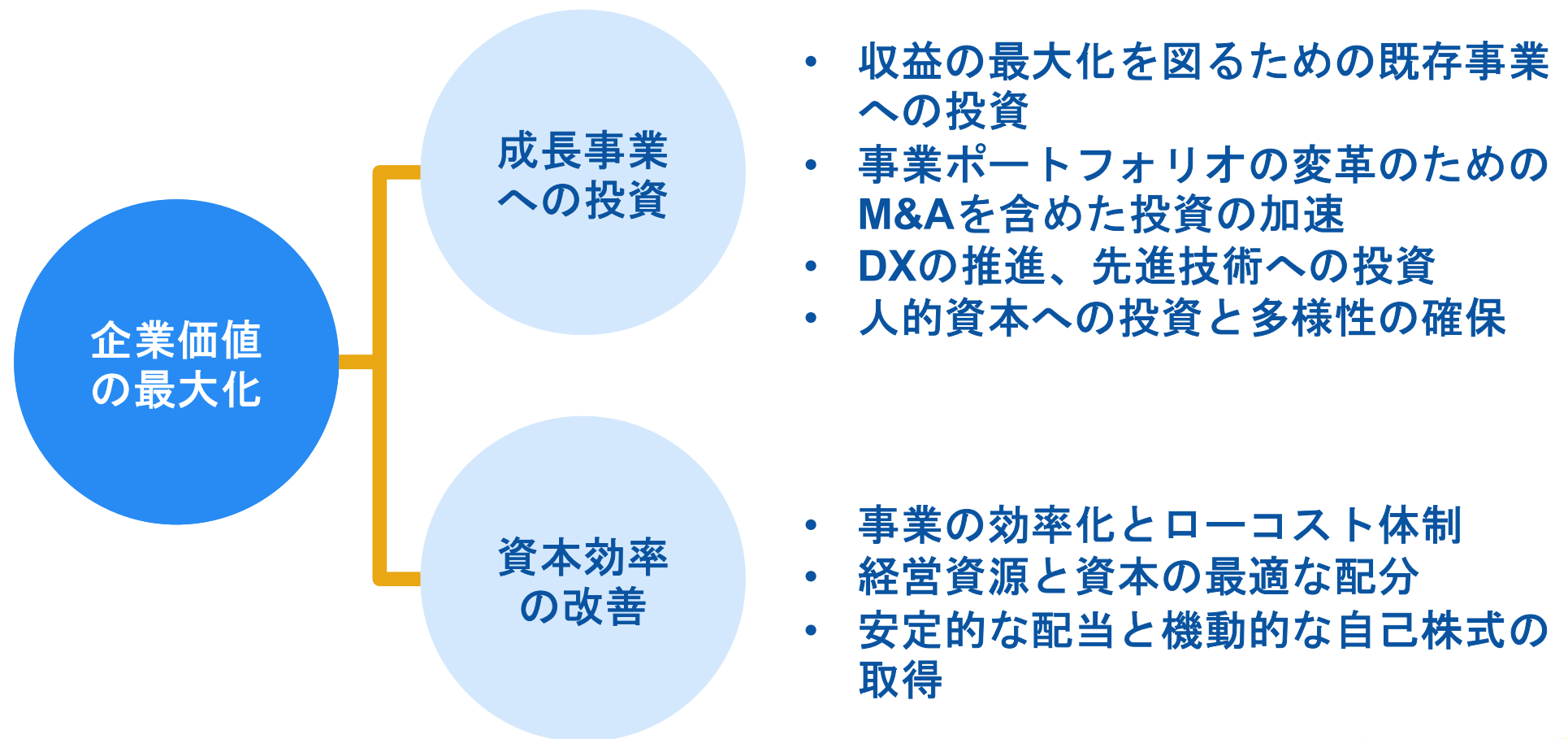
今後の資本政策の方向性

既存事業によるキャッシュの創出、投資や株主還元による有効活用、新たなキャッシュの創出というサイクルの実現を目指してまいります。



今後の資本政策の方向性

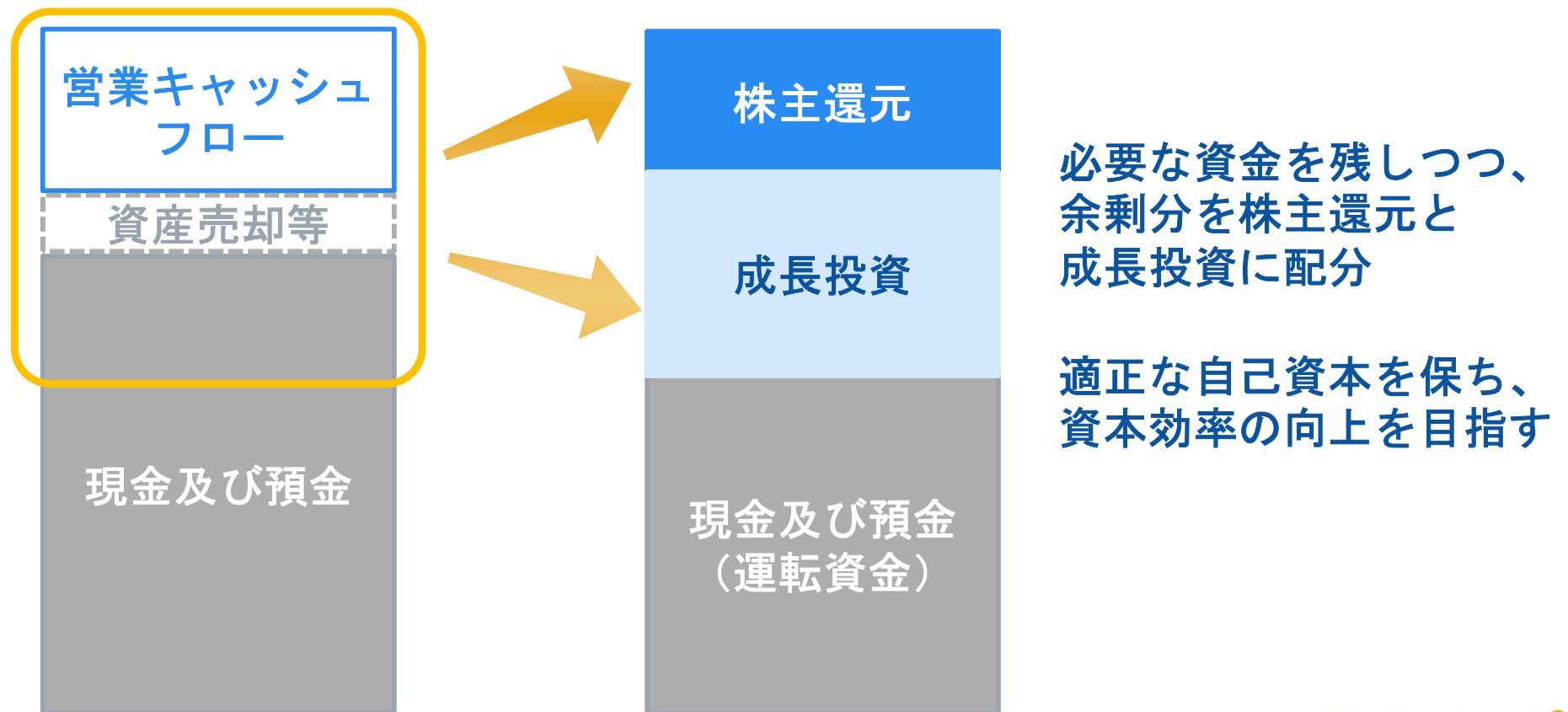
2024年度から新たに開始する中期経営計画の策定に向けて、成長投資と資本効率の最適なバランスを検討し、企業価値の最大化を図ってまいります。



今後の資本政策の方向性

新中期経営計画においては、営業キャッシュフロー・営業外の資産売却・現金及び預金を株主還元と資本効率の向上に振り向けてまいります。

キャピタルアロケーション(イメージ)



※ 上図はイメージとして作成したものであり、中期経営計画の内容として公表するものではありません。